

「時間をもつ」

エピソード

秀子さんは3歳になる達也君と1歳半のさなえちゃんの母親です。現在は仕事をやめて郊外のマンションに家族4人で暮らしています。夫の帰宅は深夜になることがほとんどです。

秋のある日。夫を送り出して洗濯物を干し、ほっと一息。さなえちゃんも、やっと一人で歩けるようになってきました。二人の子どもを連れて近くの公園に出かけた秀子さん。最近仲良くなった景子さん親子が来ています。

秀 子：「ユウタ君おはよう。景子さん、しばらく見なかったわね。カゼでもひいてたの？」

景 子：「3日ほど前までユウタの熱がさがらなくて。やっと元気になったんだけど…。」

秀 子：「どうしたの？ ぐあいが悪そうだけど。」

景 子：「早く帰ってユウタを病院に連れて行ってほしいって、夫に電話したら、『仕事が忙しい。こんないい季節にカゼをひくのはおまえの不注意だ。俺にカゼがうつたら大変だろう。』ってけんかになったのよ。」

秀 子：「誰だってカゼひくんだから、景子さんだけをせめてもしようがないのに。…」

景 子：「でも、ユウタの調子がおかしいのに早く気づくべきだったのよね。悪いのはやっぱり私なのよね。毎日なんとなく疲れてイライラしてばかりで、しっかり子どものことを見てなかったのかもしれないわ。」

秀 子：「それはうちも同じよ。夫はかまってくれないし。仕事ばかりで会話なんてないわ。私も子どもに時間をとられるばかりで、これでいいのかって思ってしまうのよね…。」



そこへ、パートに行く途中の秋子さんが通りかかりました。

秋 子：「時間をつくるように自分で工夫しなくちゃだめよ。
いい方法があるんだけど。」

秋子さんが教えてくれたのは、近くの会館であるセミナーでした。

秋 子：「保育付きって、中身はいつでも、そのあいだ子どもを
あずかってくれるのがいいのよ。一度行ってみたら？
親子づれでたくさん来ているし、友だちも増えるわよ。」

こうして、いろんな催しにかようことになった秀子さんと景子さん。
今では内容に関係なく、とにかく「保育付き」の催しを見つけてせっせ
と出かけています。



秀子さんのひとりごと…

- 内容にはまったく関心がないけれど、
これでいいのかなあ。
しんどいときは、
夫や友だちに預かってもらって、
自分の時間をもつのが
本当じゃないかなって思うんだけど。

景子さんのひとりごと…

- よかったわ。私もほっとできたし、
子どもたちもよろこんでいる…。
講座に行くと言うと
夫も安心しているみたいだわ。
でも、できれば毎日、
もっと長く預かってくれないかしら。

話しあいのポイント

- エピソードで気になるところ、共感するところはどこでしょうか？

- 自分の時間を持つためにはどうしたらよいと思いますか？